

学位論文審査結果の要旨

専攻名	システム工学 専攻	氏名	張 莉
学位論文題目	外国人の日本語学習のための誤りに着目した協同学習支援システムに関する研究		
主査・副査	主査 高瀬 治彦		㊞
	副査 鶴岡 信治		㊞
	副査 若林 哲史		㊞
	副査 北 英彦		㊞
審査結果の要旨			
<p>本学位論文は、中国人の日本語学習者の学習効果を高める学習法を提案し、それを支援するシステムの構築を行った研究である。</p> <p>外国語の学習においては言語を問わず、学習者が主体となった学びが必要である。近年、中国では日本への渡航の拡大により、日本語教育の需要が高まっているが、教授法は学習者が受動的に受講する形式が主流である。本研究では、授業中に学習者が作文をする「作文教育」を対象として、ICT 技術の導入により実施に手間がかかる学習者主体の学びを支援することで、その学習効果を高めた。提案する学習法の特徴は、次の 3 点である。第一は、誤りからの学習である。学習者が誤りを犯しそれから学ぶことで、学習効果が高まる。多くの作文授業では、教師が添削した結果を必ずしも見直すことがなく、教師の負担の割に学習効果が高いとは言えない。提案した学習法では、自分自身が犯した誤りや他人が犯した誤りについて情報交換することで、意識的に誤りを共有し、学習に役立てる。第二は、協同学習である。複数の学習者が協同して学ぶことで、学習効果が高まるだけでなく、対人技能の向上、相互信頼による学習への意欲付けなどが生じる。提案した学習法では、学習者の作文を、本人を含む複数で添削することで、この協同学習の要素を取り入れる。第三は、学習者参画型データベースである。これは、多量に記憶した学習に関する情報を検索主体で使用するのではなく、学習者自身がデータを登録し、それをさまざまな形で閲覧するタイプのデータベースである。提案した学習法では、学習により発見された誤りのデータを、学生自身に登録させることで、授業中だけでなく、授業後の振り返りにも利用できるようにした。</p> <p>以上の提案した学習方法を、まず学習管理システム Moodle 上に実装し、その運用した。この結果をふまえ、専用の学習支援システム(Jasmine)を構築・運用し、さらに改良・運用した。これら 3 回の運用の結果、それぞれの運用の前後で、誤り検出テストの得点が 60%, 20%, 50%上昇した。また、提案した学習法の 3 つの特徴について、学習者に対するアンケートにより、好評価を確認した。</p> <p>以上の研究成果は、新規性と有用性を兼ね備えており、工学的に有意義であり、博士(工学)の学位論文審査として合格と判定する。</p>			